

IOT活用でスマートファクトリーに貢献

印刷・製本管理システム提供

印刷・製本業界向けの各種業務管理システムを開発・販売するピー・エス・シー(株)(本社/東京都足立区、原田敏明社長)は、安価なコストで導入可能な印刷業向け業務管理システム「刷衛門(スリエモン)」、ならびに製本業向け業務管理システム「綴之介(トジノスケ)」を提供している。同システムを活用すれば、データの二元管理により事務作業の省力化が可能になり、その時間を多能工化することにより、工場全体の生産性向上にもつなげることが出来る。

ピー・エス・シー

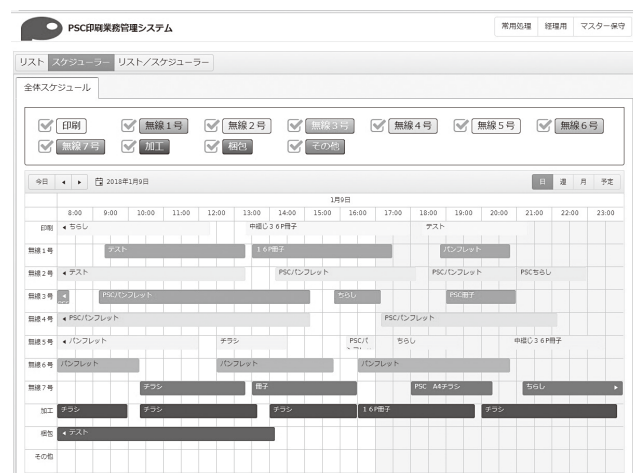
事務作業の省力化は工場全体の生産性向上に

之介50万円から導入可能となっている。

同社は、これまでに延べ150システム以上を印刷・製本業界に提供している。同社では、特注対応と低価格で差別化を図っているため、初期導入コスト250万円から、保守費用1万円/月から導入が可能。小規模システム(クライアント数台以下)の場合は、機能限定のLiteバージョン印刷部門80万円/綴

之介50万円から導入可能となっている。同社のシステムを使用すれば、標準システムで見積りから受発注、販売管理、請求書、指示書発行、売掛管理などの事務作業を一元管理することが可能。また、オプションで「進捗管理」などの生産管理システムの搭載もできる。原田社長は「印刷業界は業界としてはIOT化が進んでいるのだが、事務作業については部門ごとにファイルメー

カーやエクセルなど個別のシステムを使用し、合理化されていない会社が意外と多い。これらを一元管理することにより、二次入力、三次入力の無駄を省き、省力化を実現できる」と説明する。また、原田社長は「IOTシステムの活用は製造現場の生産性向上にもつながると指摘している。「バーコード管理することにより、日報を書く手間を省くことができる。受注番号、工程番号、機械番号、担当者番号などをバーコード管理することにより、リアルタイムで進捗状況を把握することができ、日報と同じものを作成できる。省力



WEB 工程管理画面

化した時間を多能工化することで、工場全体の生産性向上につなげることが出来る(原田社長) 同社システムの便利な機能を紹介すると、まずは「資料ボックス」が標準システムとして搭載されていることである。これは案件ごと、受注番号ごとにワード/エクセル/イラストレーターなどのファイルを入れることができるフォルダ。後々に検索したときに関連資料がすべて出てくるため、ユーザーからは便利な機能だと高い評価を得ているようだ。 営業先からの「見積り作成機能」を実現 印刷業界は見積りが細かくなることが多かったため、営業先においてその場で見積りを出すことがなかなか難しい。納期短縮が求められる中、見積りを会社に持ち帰ってから作成して出すことで仕事が遅れば、受注のチャンスを見逃すことにもつながりかねない。 そのような中、同社のシステムは、営業先から見積り作成が可能。営業先から進捗状況を確認できるシステムはすでに開発済みだが、同機能を活用すれば、シンプルな見積りを営業先で出すことができるため、営業活動の大幅な効率化を図ることが出来る。 IOTを活用した開発を進める同社は、将来的には折り機などについても「Beacon」を活用してカウントする機能を付加していく構想もあるという。また、「Beacon」以外にも、その他のIOT技術との連携も模索している。スマートファクトリーの実現に向けて、同システムの導入は一考の価値がありそうだ。